

「道路特定財源の見直しに関する具体策」意見書

道路特定財源の一般財源化の議論の中で、一貫して堅持すべきとの主張を繰り返して参りましたのは、九州の東端に位置する都市の発展は、道路整備等を含めた社会基盤づくりに他ありません。

道路は、活力ある地域づくりにとって欠くことのできない重要な都市施設であり、市民の関心も高いことから、国道・県道及び市道等を中心に、広域的な幹線道路の整備を重点的に推進していく必要があります。

特に、道路に対する依存度が極めて高い臼杵市においては、活力ある住みよい地域社会の実現と、地域間の連携・交流を促進し、均衡ある発展を図るためには、道路網の整備は重要かつ喫緊の課題であります。

このような状況の中、当市では、臼杵港港湾整備計画が進展しており、臼杵港と愛媛県八幡浜港を結ぶ航路は、関西、四国と南九州を結ぶ、我が国の戦略的国道軸で、フェリー施設機能の充実、拡充が計画され、大型車両の市街地への流入が市街地整備の大きな課題となっている。この為、臼杵港と東九州自動車道臼杵 IC を結ぶバイパス道路の整備が急がれている。開港までの限られた時間の中で、この市道強化は最重要施策として捉えておりますので、市の直轄事業として採択いただき道路改良の財源負担に交付金等の活用をご配慮頂きますようお願い申し上げます。

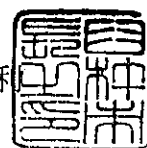
また、一般国道502号は、合併市町である旧臼杵市と旧野津町を結ぶ大変重要な路線で、両地域がより身近に感じるためにも早期に改良整備をする必要があります。現在、野田～深田区間の改良、赤迫～日当区間の改良を行っており、さらに本年度からは田平バイパスの工事も始まります。また、本路線は、臼杵市、豊後大野市、竹田市の3市を結び、国道10号、東九州自動車道、国道57号、又は中九州高規格道路へのアクセス道路でもあり、まだまだ改良を要するところが多く、3市にとっても産業の発展、観光振興のためにも早期解消が望まれています。

さらには、野津地域を南北に縦断する国道10号は、合併前の旧野津町の発展とともに整備されてきた幹線道路で、野津地域の重要な生活道路でもあります。これまでも大分市と県南地域（佐伯市）を結ぶ主要路線として継続的に整備改良されてきました。現在、地域住民からの強い要望により、野津市街部の通学路区域において両側歩道整備を進めており、本年度に用地取得を行い、平成20年度～21年度に工事実施の予定で、歩車道の分離により安全性と利便性の早期確立が期待されています。

このような地方の声を、昨年12月、閣議決定された「道路特定財源の見直しに関する具体策」における中期的な計画の作成に当たり、是非反映させていただくよう要望します。

平成19年5月8日

臼杵市長 後藤 國利



国土交通省道路局長 様

